



経堂バプテスト教会

教会短信

2012年2月5日

No. 43

牧師 間瀬 善彦

今年の冬は寒く、日本海側では大雪が続いております。雪下ろし時の事故や雪崩などで犠牲者が出ており、そうしたニュースを聞きますと心が痛みます。今年のように寒さの厳しい年は、早く暖かい春が来ないかと待ち望む思いが募ります。

児童福祉文化賞を受賞した山田火砂子監督が「大地の詩—留岡幸助物語」を映画化されています。留岡幸助(1864~1934)は、青少年の更生のために家庭学校を創設した牧師です。彼は北海道の空知監獄そらち きょうがいしの教諭師うた とめおかをしている時、囚人たちに聞き取り調査をしたところ、犯罪を犯すようになった原因に、幼少期の劣悪な環境が結びついていることを知り、家庭教育の大切さに気づかされました。それで、北巣鴨に家庭学校を設立し、後に北海道に家庭学校を設立しました。非行少年たちを引き取り、寮で共同生活をするにより、家庭の温かさを子供たちに教え、教育して社会に送り出していったのです。

教育は家庭からというのは、現代では当たり前のことかもしれませんが、まだ福祉という言葉さえなかった時代に、彼のように子供の教育は家庭からと主張し、実践した人がいたというのは驚きです。しかも縁もゆかりもない非行少年たちを、自分の子供たちと同じように愛情を豊かに注いで育てていったのです。

聖書に、「あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる」(出エジプト 20:12)とあります。わたしも40代、50代となりまして、子供の時には気づかなかった両親の苦労や家庭教育の大切さに気づかされ、両親への感謝の思いが与えられました。古来よりイスラエルでは、子供が幼い時から父親が聖書を読み聞かせ、家庭で教育を行っています。ですから、子供たちは聖書の言葉を暗唱し覚えてしまうまでになります。幼い時の家庭教育が、その後の人格形成に大いに役に立つのです。

無縁社会と言われるようになった現代、人と人とのつながりが東日本大震災をきっかけに見直されております。絆という言葉が言われるようになったのは、改めて人と人がつながり、家庭のような温かさを人びとが求めている証拠であるのでしょうか。

教会の友を亡くして



私たちの教会は昨年11月25日にNさんを天国に送りました。教会にNさんが居なくなってから2ヵ月が経ちます。まだまだ色々なことを思い出します。しかし教会にNさんはもう来ないんだと最近やっと認めるようになりました。

Nさんは病気と戦いながらも明るく賢い人でした。毎週教会に来て一生懸命に聖書を学び、お祈りをし、讃美歌をうたって神さまに礼拝をしていました。その姿に私たちの方が励まされていました。最愛の御主人と高校生、中学生のお子さんのために生きたかったであろう。私は変わるものならNさんと変わってあげたかった。Nさんを亡くした悲しみからなかなか立ち直れない私に、他教会のクリスチャンの友から「あなたはNさんと変わってはいけません。それはあなただからです。神さまは一人一人を大切にお造りになりました。まだ生かされているのは目的があるからです。あなたは神さまから託された使命に向かって生きてください」と書かれたFAXが来ました。少し目が覚めました。もう一人、他教会のクリスチャンの友から「悲しいです。しかし人の命は神さまのものです」と美しいクリスマスカードが届きました。また他教会の韓国のクリスチャンの友は、たどたどしい日本語で「だいじょうぶですか。だいじょうぶですか」と韓国料理を持参して励まして下さいました。もちろん、私たちの教会では皆で悲しみを分かち合いました。

「悲しむ人々は幸いである、その人たちは慰められる」(マタイ5:4)。

私は、Nさんを亡くした悲しみと同じ位に、多くの友達の優しさに触れました。

Nさんを思い出します。Nさんは、今年のクリスマスには、ご自宅の木の枝を切ってきてステキなリースを作ってくれました。ローソクとひいらぎをアレンジして礼拝堂に美しく飾ってくれました。

教会バザーの時は、お料理上手だったNさんは一味違うマフィンや甘夏ピールを作ってくれました。教会のファミリーキャンプ軽井沢では、夜に皆で語いました。火曜日の聖書を学ぶ会の

後、色々な話をしたり、おもしろい話をして笑いこぼしたこともあります。沢山、沢山、思い出があります。私は2ヵ月たってやっとNさんのことを書くことができました。

K. M

罪を行っている者はみな、罪の奴隷です。

常識の境界が揺らいでいる時代だからこそ、見識ある大人なら、自分なりの“大切にしたいライン”を持ちたいところです。聖書では、殺すな、盗むなという具体的な戒めを示していますが、そうした罪を生む根本に「神に背を向けること」があると言っています。欲望のままに行動することは、その人を罪の奴隷にするとも書かれています。快樂は、見えない獣となって人の心の中に住みつき、さらに強い刺激を求め、その人を駆り立てます。猛獣使いが、いつのまにか獣と入れ替わって檻の中に入っていたなんてことにならないように、ご注意を。

(『聖書の品格』いのちのことば社より引用)

イースター記念礼拝



2012年4月8日(日) 午前10時30分～12時

キリストが十字架にかけられて殺され、埋葬された後、3日目の日曜日の早朝に復活されたことをお祝いする日です。キリスト教会では、キリストが復活された日曜日を「主の日」と呼んで、教会に集まり礼拝をします。

イースターは、「移動祝日」で、年毎に日が変わります。基本的には、春分の後の最初の満月の次に来る日曜日です。満月が日曜日になったら、次の日曜日に復活祭を行います。

今年は4月8日の日曜日に、イースター礼拝を行います。どうぞ、どなたでもご参加ください。

日曜日は教会へ集 案 内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
青年科・成人科		
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈祷会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。

エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。

